

令和3年度 **国** **語** (50分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 2 この問題冊子は31ページである。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始の合図前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
 - ・①氏名欄
氏名を記入すること。
 - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 4 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

10

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 欄				
10	①	②	③	④	⑤

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

国語

解答番号

1

）

22

（

1

次の問1～問6に答えよ。

問1

(ア)、(イ)の傍線部の漢字の正しい読みを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は

1

・

2

(ア) 文化を享受する。

1

- ⑤ きょうじゆ
- ④ しょうじゆ
- ③ じゆんじゆ
- ② きんじゆ
- ① こうじゆ

(イ) あの家族とは懇意にしている。

2

- ⑤ えいい
- ④ けいい
- ③ こうい
- ② こんい
- ① せい

問2 傍線部に当たる漢字と同じ漢字を用いるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

一等をカクトクした。

- ① カクチョウ高い表現技法を用いる。
- ② 優秀なサイカクの持ち主である。
- ③ 野生動物のホカクを禁じる。
- ④ 舞台裏でカクサクする。
- ⑤ 相手とゴカクに戦う。

問3 傍線部は「技量を示したくてじつとしていられない」という意味の慣用句である。空欄 に入る語として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

強豪校との対戦を前に、今から が鳴る。

- ① 首
- ② 腕
- ③ 指
- ④ 膝
- ⑤ 足

問4 傍線部の意味として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

5

優勝杯をめぐる両チームがしのぎを削る。

- ① 相手をけん制すること。
- ② 一心に打ち込むこと。
- ③ 悪だくみをする事。
- ④ 工夫をこらすこと。
- ⑤ 激しく争うこと。

問5 「純文学」と同じ構成で成り立っている熟語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

6

- ① 千里眼
- ② 批判的
- ③ 雪月花
- ④ 血液型
- ⑤ 高気圧

問6

「目」という漢字を辞書で調べると複数の意味がある。その中で、「箇条・見出し」という意味の「目」を含んでいる語を次のア～オからすべて選ぶとき、その組合せとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

ア 注目 イ 目録 ウ 品目 エ 目先 オ 項目

- ① ア・イ・ウ
- ② ア・エ・オ
- ③ イ・ウ・オ
- ④ ア・エ
- ⑤ オ

2

今年、西高校では学校説明会用の動画の一部を生徒会が作るようになった。次の【話合いの一部】は、紹介動画で何を話題として取り上げるかについて生徒会役員五人が話し合った様子の一部である。また、【図①】～【図③】は、話合いの最中にホワイトボードに描かれたものである。これらを読んで、問1、問2に答えよ。

【話合いの一部】

笹倉さん 私は西高校の制服を取り上げたいな。まだまだ知られていないと思うから。

鯉沼さん ^Aそれって、去年から新しく夏服に加わった校章入りのポロシャツのことね？

笹倉さん うん。でもそれだけじゃなくて、女子の制服のことが、よく知られていないと思うんだよね。圧倒的多数がブレザーにスカートをあわせているけど、実は西高校には、ブレザーとパンツの制服もあるじゃない？ だから、それを紹介するといんじゃないかなと思うんだ。

吉田さん 僕は、^B二年生や三年生での選択科目について紹介したいな。選択科目の内容や選択の仕方とかを中学校の後輩からよく聞かれるからさ。

藤原さん だったら、総合的な探究の時間で行っている探究学習もいんじゃないかな？

川口さん 僕は郷土芸能部がおもしろいと思うよ。

鯉沼さん じゃあ、ちょっと待って。これまでの意見を整理してみるからね。(ホワイトボードに【図①】を描く)……こんな感じだよ。藤原さんと川口さん、まだ理由を聞いてなかったよね？

藤原さん 僕が探究学習を紹介するのと思った理由は、フィールドワークがとてもおもしろいと思うからだよ。他校の友達に聞くと、校外でこのような学習はあまりやってないらしいから、この探究学習は多分、西高校の特色って言えると思うんだ。

鯉沼さん ^Cおもしろい学習、つまり、アンケートをお願いしたりインタビューをしたりするフィールドワークをしているから紹介したい、ということね？

藤原さん というよりは、そういうおもしろい学習をしているのに、あまり知られてないと思うから、紹介したらどうかと思ったんだ。

鯉沼さん なるほどね。ありがとう。川口さんは？

川口さん 郷土芸能部がもっと有名になってほしいから、だな。この間の全国大会にも出場していたし。

鯉沼さん 了解。では、それを付け加えると、こうなるね。(【図①】に書き足す。ホワイトボードは【図②】のようになる)ほかに紹介したいものがある？

笹倉さん ^D 動画の時間は十分間だから、これくらいでちょうどいいんじゃない？

鯉沼さん そうだね。じゃあ、この四つの話題を順に取り上げていく形でいいかな？ ……でも、このまま四つの話題を順に紹介していただく

は、全体としてのまとまりに欠けるような気がしない？

川口さん たしかに、話題がバラバラな感じがするね。^E どうしたら、まとまった感じにできるのかな？

藤原さん 何かこの四つの話題をつなぐ共通点でもあればいいんだけど……。

吉田さん (【図②】を見ながら)^F これを見ると、四人が挙げたことには、「地域の人にあまり知られていない西高校のこと」という共通点があるんじゃないかな？

笹倉さん なるほど。言われてみれば、そうかも。

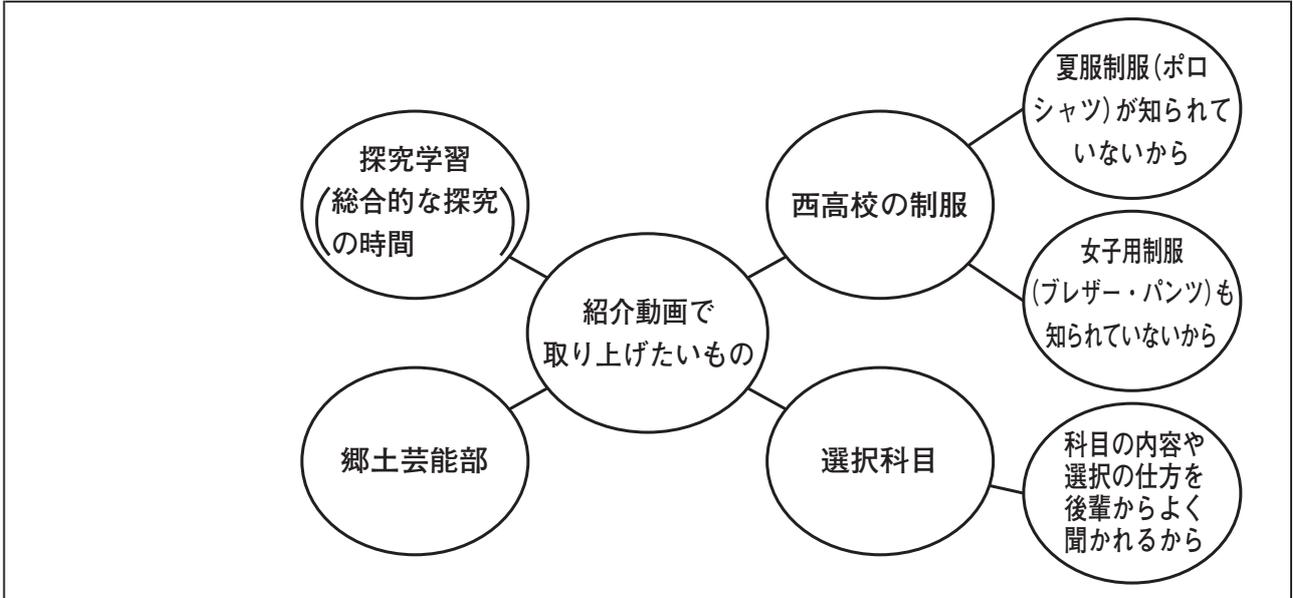
吉田さん ちよつと、ここを直してみたい？ (【図②】に書き足す。ホワイトボードは【図③】のようになる)つまり、こういうことになるんじゃない？

笹倉さん (【図③】を見ながら) ……そうか。制服も選択科目も探究学習も郷土芸能部も、「地域の人にあまり知られていない西高校のこと」というわけなのね。だったら、提案なんだけど、「地域の人にあまり知られていない西高校のこと」を、もうちよつと私たちが挙げてみて、そこから選りすぐりのものを「西高クイズ」にして動画にまとめるのはどう？

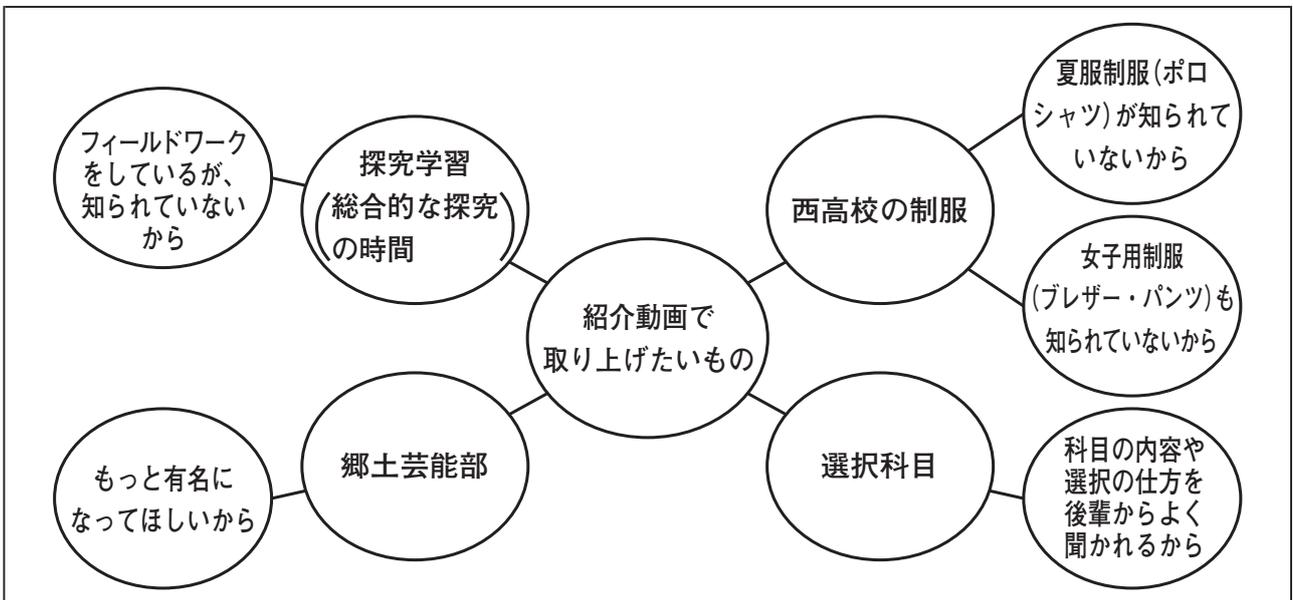
川口さん いいね。おもしろいと思う。

鯉沼さん じゃあ、この線で行こう。ではさつそく「地域の人にあまり知られていない西高校のこと」を、もう少し挙げてみようか。

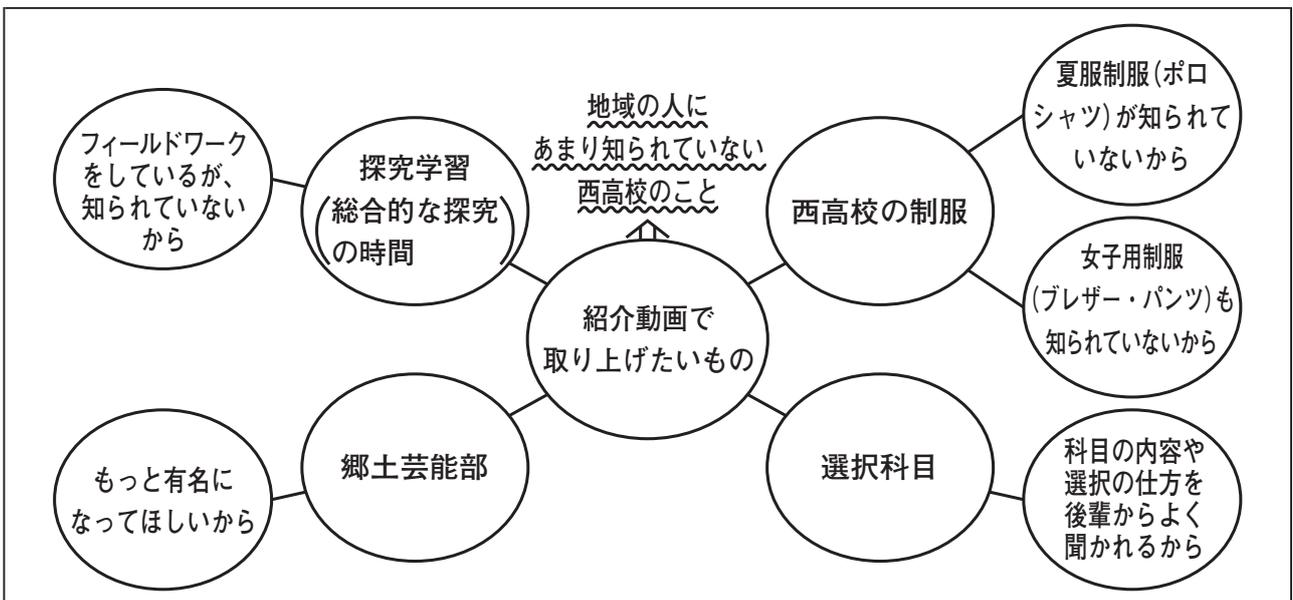
【図①】



【図②】



【図③】



問1 傍線部A～Fの発言のうち、「相手の考えを具体的に確認している発言」はどれか。次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① AとB
- ② AとC
- ③ BとC
- ④ DとE
- ⑤ DとF

問2 この話合いについて説明したものと最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 各自の意見からその根底にある共通点を見つけ出したことで新たなアイデアにたどり着き、合意が形成された。
- ② 各自の意見とその長所と短所を明確にしたことで新たなアイデアにたどり着き、大筋については合意が形成された。
- ③ 各自の意見から共通点と相違点を明確にしたことで新たなアイデアにたどり着き、合意が形成された。
- ④ 各自があげたアイデアの中から二つを合わせて新たなアイデアとしたことで、合意が形成された。
- ⑤ 各自があげたアイデアの中から最も支持されたアイデアを全員で練り上げたことで、合意が形成された。

3

北高校の山田さんは文化祭実行委員を務めている。山田さんは、委員会で伝達された内容に基づき【メモ】を書いた。さらに、全校生徒参加型企画の制作手順についてクラスの生徒に伝えるため、その【メモ】をもとに【連絡事項A】を作成した。しかし、同じ実行委員の鈴木さんから、このままでは分りにくいという指摘を受けて、【連絡事項B】を作成した。【メモ】と【連絡事項A】と【連絡事項B】を読んで、問に答えよ。

【メモ】

第3回文化祭実行委員会 6/30 会議室

- ◎本日の内容：・各企画の進捗状況と今後の予定の確認
 ・全校生徒参加型企画(モザイク画)の作業依頼
 ・文化祭統一テーマ「未来への希望」

巨大なベニヤ板にさまざまな色の折り鶴を大量に貼り付けて作る絵

1 進捗状況と今後の予定

- 各クラス } 進行中 企画書 7/10 締切
- 部活動 }
- ※企画書が提出された後、調整が入る可能性あり
- 全体(実行委員会が企画)
 - ・開会式 閉会式……内容検討中
 - ・全校生徒参加型企画
(前回の実行委員会で今年度は巨大モザイク画に決定)
 - ・原画はテーマに沿ったものを美術部が制作済み
 - ・実行委員会の全体企画係が拡大、モザイク化、色の配置決定済み
 - ・クラスごとに割り当てられた部分を制作する。
 - ・期限は9月15日(できれば3日程度前が目標)。

2 巨大モザイク画 各クラスの作業

- 1クラスにつきベニヤ板1枚分
- ベニヤ板に縦66mm×横33mmのマスを引く。
 縦置き……縦30マス×横30マス(計900マス)
 横置き……縦15マス×横60マス(計900マス)
 縦置きか横置きかは指定される。
- ※クラスは40名なので、1人23羽折ればOK。
- 実行委員会から配付された折り紙を使って折り鶴を作る。
- クラス全員で折り鶴を作り、設計図に指定された色の配置どおりに接着剤で貼り付け。
- 鶴の頭は折って右向きに貼る。引いたマス目より折り鶴の方が大きいので、はみ出した部分を重ねながら貼る。
- 完成したら生徒会倉庫へ。

* クラスへ作業内容を伝えること!!

第3回文化祭実行委員会で、以下の内容が決定しました。

○文化祭統一テーマ 「未来への希望」

- ・原画は美術部が制作済み。実行委員が拡大してモザイク化しました。
- ・各クラスに担当箇所が割り振られているため、期日までに完成させておくこと。
- ・締め切りは9月15日。(できれば提出期日ぎりぎりよりも3日前が望ましいです。)
- ・配付された折り紙を折って、ベニヤ板に貼り付けします。
※鶴はなくさないようにすること。少し多めに折っておくとよいかもしれません。
- ・鶴の頭は右向きで、はみ出さないように重ねながら貼るようにしてください。
- ・接着剤は実行委員が持っています。

クラスの皆さんの協力が必要です。ぜひ頑張って、素晴らしいモザイク画を完成させましょう！何か分からないことがあれば、いつでも実行委員に声をかけてください。

文化祭実行委員 山田

全校生徒参加型企画について

Q：今年の全校生徒参加型企画は何をするの？

A：巨大モザイク画を作る。

Q：どんな絵ができあがるの？

A：今年度の文化祭のテーマ「未来への希望」を表現した絵。
全体像は完成してからのお楽しみ！

Q：一人一人はどんな作業をするの？

A：折り鶴を折ってベニヤ板に貼り付ける。

Q：一人何羽折るの？

A：一人23羽。

Q：折った後はどうするの？

A：ベニヤ板にマス目を引いて、そこに色を書き込んだものが用意されている。
指定された色の鶴を接着剤で貼り付ける。
※鶴の頭は折って右向き。接着剤は実行委員が持っている。

Q：いつまでに完成させるの？

A：9月12日の完成が目標！

皆さんの御協力をお願いします。

文化祭実行委員 山田

問 【連絡事項A】と【連絡事項B】を比べると、【連絡事項B】ではどのようなことを工夫して作成したと考えられるか。最も適当なものを、次の①～

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 読み手の連絡事項への理解が深まるように、事実と意見を区別して論理的な構成で作成した。
- ② 読み手の文化祭企画への意欲を喚起するために、書き手の主観的な意見を情報の根拠として作成した。
- ③ 読み手が作業全体の概要をはっきりと把握できるように、細かい部分から全体へと項目を立てて作成した。
- ④ 読み手が作業の内容を具体的に理解できるように、伝える内容を精選して整理し形式を変えて作成した。
- ⑤ 読み手への敬意を示すために、文章全体を通して敬体で記述して丁寧な表現を心がけて作成した。

4

次の文章を読んで、問1～問6に答えよ。

スポーツ用品を販売する会社に勤める素子は、日々の子育てや食事作りに消耗し、同い年の子供を持つ友人の珠理を「遠くへ行きませんか」と誘った。素子は旅先の温泉で珠理と会話するうちに、若くして亡くなった母のことを思い返す。三十代の初めに病気になる、十年闘病した母は、素子にとつて一緒にいてあまり居心地よさを感じる相手ではなかった。

ランチは、すっかり秋の風情だった。茗荷や生姜、紫蘇におろしにんにくなど、薬味をたっぷり添えた鰹のたたき。海老、帆立、舞茸、ししとうの天ぷら。きのこ鮭の茶碗蒸し。食用菊ときゅうりの酢の物。茄子のお新香。栗のポタージュスープ。デザートには、水ようかん。

茶碗蒸しとポタージュスープかな、ととつさに頭が動き、いや今日は子供に食べさせなくていいんだ、と数秒遅れて混乱する。欲しがられた場合に備えて刺身を残しておく必要も、熱くて食べられないと言われる前に茶碗蒸しを崩して息を吹きかけておく必要も、ない。

冷たい梅酒で乾杯し、そつと料理へ箸をつけた。

ざくざくと奥歯で碎ける薬味の涼気が、ししとうのほのかな辛さが、食用菊の酸味と菌触りが、突風のように口の中で吹き荒れた。

うっわおいし、と思わず呟く。卓の向かいに座る珠理は「秋だねえ、素晴らしいねえ」と嘔みしめるように言った。

「家族の味の好みとか、栄養とか、生野菜を食べる練習をさせなきゃとか、そういうことばかりジグソーパズルみたいに考えてたら、自分がなにを食べたいかぜんぜん分からなくなってた」

青味の深い茄子のお新香を口に放り込んで言う。茶碗蒸しをひと匙、慎重にすすり、珠理は何度も頷いた。

「家庭の食卓って、忖度の積み重ねでできてるよね。自分がこれを食べたい、以外の理由で組み立てた料理を毎日作り続けるって、考えてみると結構クレイジーだよ。しかもそうして作った料理を、家族が喜ぶかっていうと微妙なわけだし」

「ああ、確かに子供の頃、そんなには食事を楽しみにしてなかったな……」

よほどの空腹時ともかく、遊んでいるときや漫画を読んでいる最中に「ごはんよー」と呼ばれ、嬉しさよりも先に面倒くささがふわつとよぎった覚えは幾度となくある。料理を作る側からすれば腹の立つ話だが、作られる方は作られる方で、まったく違うことを感じて生きていた。

子供の頃を思い出しながら、薄いクリーム色のポタージュスープを舌に広げる。なめらかで、濃厚で、甘さに奥行きがある。

「実は私、母親の料理をほとんど覚えてないんだ。子供の頃は焼きそばとかグラタンとか好きだったから、そういうのは作ってくれてたと思うんだ」

けど……唯一覚えてるのが、ある日、味噌汁みそじゆにズッキーニが入ってて、それで、お母さんズッキーニはないよーって文句を言った。はっきり覚えてるのは、それだけ」

「えー、なんでいきなりズッキーニ」

「体調が悪くて買い物に行けなかったとか、そんな理由じゃないかな。そう思ったのは亡くなった後だけだ」

今なら夏野菜を入れたおしゃれな味噌汁もいろいろあるが、あの頃はまだ葱ねぎとか豆腐とかわかめとか、王道的な味噌汁ばかりだったから、なおさらインパクトが強かったのだろう。

「だから母親の好きな食べ物とか、知らないんだ。体調が悪いなら出前でもとればいいのに、残り物のズッキーニで無茶な味噌汁を作っちゃうくらい、こう……形を守るっていうか、母親らしいふるまいを崩そうとしない人だったから。普段の食卓も、栄養とか、月の食費とか、私や父親の好みとか、そんな付度ばかりだったと思うんだよね。あの人がはしゃいでなにかを食べていたって記憶が、全然ないもん」

「んー……そういえば私も母親の好物、知らないな。ちゃんと考えたことなかった」

梅酒を飲み終えた珠理は、瓶ビールをグラスに注いでぐいぐい飲んだ。唇の上に残った泡をおしほりで拭いて、続ける。

「さっそういうものなんだよね。元気で、ちよくちよく顔を合わせてるうちは改めて聞くのも照れくさいし、そもそも知らうと思わない。でもさうして過ごすうちに、一緒にいる時間は終わるんだ」

珠理の飲みっぷりにつられ、私も小さなグラスにビールを注いだ。グラスの半分くらいまで、一息に喉を鳴らして飲む。

「それ、うちらの子育てにも言えることだよな。ホットケーキとか、ラーメンとか、オムライスとか、息子の好物はいくらでも知ってる。夫の好物も。でも、私の好物をきくと二人は知らない」

そもそも二人が知る知らない以前の話として、自分でも食べたいものが分からなくなるのだから、真面目に妻や母親をやり過ぎるのも考えものだ。私の母親も、自分の好物なんて忘れていたのではないだろうか。

いくらか酔いが回ったらしく、珠理は眠たげな目をとろりと細めて微笑んだ。

「素子は、今でもちよっと寂しい？」

「うーん」

「親として接してもらおうより、もっとお母さん自身のことを覚えておきたかった？」

「……でも、そんなことを考えるのは、私が大人になったからだよ。子供の頃はもっと、毎日食卓に出てくる料理を、食べるのに見てない、みたい

な、とろんとした無感覚の中にいた。親への興味なんて、なかったんだから、仕方ない」

どうしようもないことを言っている、と分かっている。匙の上でぼったりと盛り上がった栗のポタージュスープを口へ運ぶ。執着しているのに、他人として認識できない。無感覚の海は、きつとこんな甘くなめらかな味わいだっただけに違いない。

「その無感覚にいろのが子供だよ。素子のお母さんは、むしろ素子が子供でいられる時間を守りたかったんじゃないかね。悩み事があると色々考え始めるから、そういう子はクラスでもすぐに分かるよ。あ、なんか大人になってきてるなって。まあそれだって、いろんな人生があるってこーとーだーけーどー……」

しゃべりながら珠理はそのそと畳を這って、和室の隅に置いてあったハンドバッグに手を伸ばした。財布から、半分に折られた薄ピンク色の短冊っぽいものを取り出す。

「あった。あげる」

「なにこれ？」

「先月の誕生日に上の子がくれたんだ」

折り紙を半分に切ったようなその紙には黒くにじんだ鉛筆書きで、なんでもねがいがかんうけん、と書かれていた。大きさも向きも不揃いな、子供らしい字だ。

「これを出されたらすぐにお片づけをするとか、お手伝いをするとか、そういうニュアンスで作ってくれたんだと思うけど、すごくない？ なんでも願いが叶うんだよ？」

「てか、こんなに大事なものを、もらえないよ」

「いいのいいの。まだ家に三枚あるから、とっておいて。その、とろんとした無感覚の中にいる人にしか作れない、魔法の券だよ。いいことあるかも」

ありがとう、と礼を述べて、しげしげと手にした券を見つめる。

なんでもねがいがかんうけん。

頭の中で復唱すると、瞼の裏に白い海が広がった。生温かい、無感覚の海。

食事の間に、私たちは梅酒の他、ビールの中瓶と日本酒二合を空にした。いい気分で、和室の利用時間が終わるまで、三十分ほど横になってくつろぐ。

「あ、そっだ。忘れないうちに」

私はトートバッグをたぐり寄せ、珠理に頼まれていたホイッスルのサンプルをテーブルに乗せた。保育園で使っているものが壊れたとかで、最近の売れ筋商品が見たいと頼まれていたのだ。

金属のもの、プラスチックのもの、中に玉が入っているオーソドックスなもの、細長いもの、カラフルなもの、シンプルなもの。五つほどおすすめを並べると、珠理は和室の窓を開け、目の前の山へ向かって一つずつ、ピー、ピー、と吹き鳴らした。

柔らかい笛の音は山の稜線りょうせんをひらりと撫なで、遠く遠くへと伸びていった。

特急列車が停車する駅から山裾の温泉施設までは、三十分に一本の間隔でバスが出ている。徒歩でも十五分くらいなので、私たちは来るときは散歩がてら歩いてきた。帰りは、お酒も入っているのでバスを使おうと相談していた。

施設の目の前のロータリーが、まるでポタージュスープを張ったような白い海になっているのを見るまでは。

慌ただしく行き交う施設の職員によると、温泉のお湯が漏れたらしい。ただ、付近一帯がこうなっているため、漏水元が分からない。そもそもここはそれほど湧出量の多い温泉ではないのに、としきりに不思議がっていた。

バスは動かせない、と職員は申し訳なさそうに肩をすくめ、私たちにビーチサンダルとハンドタオルとビニール袋を貸してくれた。靴と靴下は袋に入れて持ち運び、サンダルとタオルは駅に設置した段ボール箱に入れてください、とのことだった。駅は少し高い位置にあるので電車は動いているし、危ない場所には職員が立っているので大丈夫です、どうかお気をつけて。そんな声に見送られ、ビーチサンダルに履き替えた私たちは、それぞれがスカートをたくし上げ、ズボンの裾を折って、膝には届かない深さの海へ踏み出した。

「こんなことがあるんだね」

「足湯の中を歩いているみたいで気持ちいい」

まだ酒が残っているのだろう珠理は鼻歌交じりで進んでいく。

施設の周りは人がたくさんいたけれど、市街地に入ると途端に人の気配がなくなった。危ない場所に立っているという職員の姿もない。空き地なのか、畑なのか、駐車場なのか判然としない、のっぺりとした白い浅瀬があちらこちらに広がっている。

「みんないないね」

「漏水元が分からないって言ってたから、探してるのかな」

少し心細くなつて見回せど、空き家らしき家も多く、商店はすべてシャッターを下ろしている。私たちの他に、通行人の姿はない。そんな風に景色が一変していたものだから、どこかで道を間違えたらしい。

目印にしていたガソリンスタンドの看板が見つからず、私たちは駅の方角を見失った。

「困ったねー」

「一度、施設まで戻ろうか」

「ちょっと待って、地図アプリを見てみる」

長いスカートを大胆にたくし上げ、裾を結んでミニスカートにした珠理は、スマホを確認して顔をしかめた。

「圏外になつてる」

「通信障害?」

「かなあ。あと、山間部だから、もともと電波が届きにくいのかも」

「うーん」

本格的に行き詰まつてしまった。なにか役に立つものはないかと、自分のトートバッグを確認する。

「こういうときこそホイッスルじゃないですか」

「なるほど」

珠理には先ほど彼女が気に入っていた丸みのあるレモンイエローのホイッスルを渡し、自分は開発に携わったシルバーの細長いホイッスルを口にくわえた。

二人で歩きながら、ピー、ピー、と吹き鳴らす。人の話し声も、電車の音も、生活音と呼べるようなものはまるで聞こえない。ぬるま湯に浸った町へ、澄んだ笛の音が響き渡る。

ピー、ピー、ピー、ピー。

なんだか自分が助けを求める雛鳥ひなどりにでもなった気分だ。

「あ、なんか聞こえる」

ピーゆ、と私たちの音色よりも幾分弱い、だけど確かに意思を感じる音色が町のどこかから返ってきた。時々聞こえるそれを頼りに、辻つじを曲がり、路地を抜ける。ピーゆ、ぴい、ぴい。柔らかみのある口笛は、年季の入ったクリーニング店の二階から聞こえた。店舗にあたる一階のシャッターは閉

まっついていて、二階のベランダに、紺のTシャツに花柄のステテコパンツを合わせた初老の女性が立っていた。私たちを見つけ、手を揺らす。

「なにか困ってるのー?」

「すみません! 駅に行こうとして、迷っちゃって」

「駅はこっぢじゃないよー。お湯が引いた後に行つた方がいいよ。横の階段から上がっておいでー」

女性はそう言つて、建物の側面に設置された外階段を指さした。遭難者が島に辿り着いたような気分で、私たちは彼女の家に上がった。

二階は、ものの少ない整頓された部屋だった。八畳の和室に箆笥たんすとテレビ、ちゃぶ台が置かれ、部屋の隅には布団が畳んである。きっと女性は、この一部屋だけで生活しているのだろう。

「ズボンとスカート、濡ぬれて気持ち悪いでしょう。洗濯しておくよ」

風呂場を借りて足を洗うと、女性は私と珠理にゆるめのハーフパンツを貸してくれた。ありがとうございます、と礼を言つてそれに着替え、和室の適当な位置に腰を下ろす。ふいに、強い眠気が押し寄せた。酒が入つた状態で、ぬくい足湯をうろうろと歩き回つていたのだ。緊張の糸が切れた途端、意識が途切れそうになる。

「いいよ、疲れたなら寝ちゃつてもいいよ。お湯が引いたら起こすからね」

女性の声は、いたわることに慣れていた。すみません、ほんとすみません、と口の中で呟いて壁に背を預け、姿勢を崩させてもらう。

食事の途中だったらしく、ちゃぶ台には料理が残つていた。卵かけごはん。ミニトマト、人参にんじん、大根、胡瓜きゅうりなど彩り豊かなピクルス。鮭の中骨が入つた水煮缶を、ぱっかんとして開けたもの。

眺めているうちに、尾てい骨の辺りがそわりと浮き立つた。この人はきっと、自分が好きでないものは、もう一口も食べていないに違いない。そんな潔さと喜びのにじむ、清らかな食卓だった。

箸の先が器に触れるかすかな音を立てながら、女性は食事を進めていく。表情は淡く、ともすれば気だるそうに見えるぐらいだが、目がほのかに光っている。

「時々あるんだよ、こういう日が。心配しなくても、待つていればちゃんと帰れるからね」

「はー」

この人は母ではないと分かっている。だけど母が、家族向けの食卓とは別の場所で、こんな風Dに光る顔でなにかを食べていた瞬間が、あつたような。それを不思議な気分で見つめた数秒が、あつたような。

女性が胡瓜のピクルスを口へ運ぶ。しゃり、とみずみずしい音が立つ。

「あ」

夜遅くに、台所で、母が林檎りんごを食べていた。赤い皮を残したまま、一口サイズに切り分けた林檎を、小鉢に盛って、爪楊枝つまようじで刺して。トイレかなにかで通りがかった私が、あれえ、と言うと、母はまだほとんど中身の残った小鉢を私に渡し、ぜんぶ食べていいよと言った。

^E どうしてもらってしまっただらう。一緒に食べればよかった。

箸を置いた女性が、麦茶に口をつけながらこちらを向いた。

「あなたたち、指笛さしふえじゃうずだねえ。窓を閉めてたのに、すごーく綺麗きれいに聞こえたよ」

「……あ、あれ、指笛さしふえじゃないんです、えっと」

重い頭を振って、トートバッグに手を伸ばす。今にも背後に墜落しそうなくらい、眠い。気がつくと、珠理はとっくに畳にうつぶせに丸まって寝息を立てている。感覚の鈍った腕を動かし、珠理に一つ渡したので四つに減ったホイッスルのサンプルを畳に並べた。

「よければ、助けてもらったお礼に、好きなものを選んでください」

「いいの？」

女性は数秒指を迷わせ、シルバーの細長いホイッスルを手を取った。

ああそれ、私のおすすめです。笑って口を動かす間に、瞼が落ちた。ピロードのような光をまとった暗闇へ、吸い込まれる。

(彩瀬まる『ポタージュースの海を越えて』による。)

問1 傍線部A 面倒くさがふわつとよぎった とあるが、その時の心情についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 子供は何よりも食事を楽しみにしているが、親の対応によっては食事の席に着こうとする意識が薄れて、不機嫌になってしまったということ。
- ② 子供は自分の世界を持っており、親が愛情を持って接しても自分の世界を壊されることを恐れて、食事を拒絶することがあったということ。
- ③ 子供にとって自分の世界に没頭しているときなどは、食事を楽しみにするよりも、自分の欲求を優先させたくなる瞬間があったということ。
- ④ 子供は基本的な生活習慣が身についていないため、食事の前に手を洗ったり、席に着いたりということすら面倒に思ってしまうということ。
- ⑤ 子供は欲求に素直で、機嫌がいいときは楽しく食事をするが、機嫌が悪いときはふてくされて食事の席に着くことさえできないということ。

問2 傍線部B そんなことを考えるのは、私が大人になったからだよ とあるが、この説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 幼い頃は他人の気持ちなどに配慮しないために母親でさえ傷付けてしまうが、母親にならなければその痛みには気づかないということ。
- ② 母親が作ってくれた手の込んだ料理に愛情が込められていたことは、自分が家族のために料理を作るまでは実感できないということ。
- ③ 幼い頃は無条件に守られているため、母親を自分とは違う一人の人間として実感できず、成長しないと母親を対象化できないということ。
- ④ 幼い頃は自分中心に物事を捉えることが多いので孤立してしまいがちだが、そういうことは大人にならないと気づかないということ。
- ⑤ 幼い頃に興味や関心の方向性が決まってしまうと世界が狭くなるということとは、実際に子供を育てなければ理解できないということ。

問3 傍線部C 生温かい、無感覚の海。とあるが、それが象徴するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 母親との間に壁があり自分のことしか認識できないまま、孤独に追いやられている期間。
- ② 母親の思いや心の痛みを気に留めることもなく、母親の愛情によって守られている期間。
- ③ 母親を排除することで自分の世界を守ろうとする、幼い頃特有の欲求が働いている期間。
- ④ 母親からの過度の期待に応えようとするあまり、明確な自我を持つことができない期間。
- ⑤ 母親と意識を共有することで大人の気持ちに気付き、周囲の温かい支えを理解する期間。

問4 傍線部D こんな風に光る顔 とあるが、「光る顔」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 表情は淡く、気だるい様子でありながら、家族の食卓という緊張から解放され安心した顔。
- ② 家族と共に食卓を囲んでいるが、自分の好きでないものは食べないという決意に満ちた顔。
- ③ 家族とは異なる自分のために特別に用意された豪華な食事を前にした、満ち足りた顔。
- ④ 他の誰かへのいたわりの気持ちから自分の食事を中断するような、正義感に満ちている顔。
- ⑤ 家族に付度しない自分だけの食卓を目の前にしたときの、自由で潔く喜びが感じられる顔。

問5 傍線部E どうしてもらってしまったんだろう。とあるが、そのように思った理由について説明した文章として最も適当なものを、次の①

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 母が自分の時間を楽しもうとしていたにも関わらず、子供だった自分が林檎をもらってしまふことで母親の役割に引き戻ってしまったことに今更ながら気付いたから。
- ② 母が林檎をくれると言ったことを真に受けてしまったが、実は自分と一緒に林檎を食べたかたのではないかという発想になれなかったことで自責の念に駆られたから。
- ③ 母の役割から解放されて自分の時間を過ごしているときに、自分がわがままを言わなければ、子供の存在がより愛おしいものになることに今更ながら気付いたから。
- ④ 母は家族と共に過ごす時間を何より大切にしていたことを思い出し、一人で食卓を囲んでいた時に、本当は誰かと一緒に食事をしたかったのかもしれないと考えたから。
- ⑤ 母が家族に内緒で一人の時間にこっそり林檎を食べていたのに、自分が無邪気にねだってしまったことで、母に恥ずかしい思いをさせたことに今更ながら気付いたから。

問6 この文章の表現と内容について説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 何気ない日常会話を中心とした展開とともに、「ポタージュスープ」の持つイメージが物語全体の時間の流れをゆったりと感じさせ、一方では食品の素材名を羅列したり、短い回想をさしはさんだりするなどして、母親や主人公の内向的な性格を象徴的に描いている。
- ② 物語が展開する場面ごとに「ホイッスル」や「口笛」の音、「ピクルス」を食べる時の音などを効果的に挿入することで、温かい雰囲気の中にも物語全体に緊張感を与えつつ、子供の頃から抱いていた母への思いから脱却し、大人になる厳しさを印象的に表している。
- ③ 「温泉」や「ピロード」の色など「ポタージュスープ」を想起させるなめらかでつやのあるような描写を後半にのみ多用することで、前半から後半にかけて徐々に登場人物たちの感情の起伏が色鮮やかさを増し、未来への希望に満ちあふれている様子を表現している。
- ④ 物語は主人公の母への追憶が中心であり、劇的な展開はあまり見られないが、「ポタージュスープ」の「ぼったり」「なめらか」という表現が、子供時代の「無感覚の海」という表現と重ね合わされ、文章全体を統一するイメージとして効果的に機能している。
- ⑤ 「なんでもねがいがかなうけん」「とろーん」など、平仮名を多用することで、子供のかわいらしさを強く印象づけるとともに、とろみのある「ポタージュスープ」の濃厚なイメージを想起させることで、幼い子供が抱く母への興味や関心の強さを印象付けている。

5

中川さんのクラスでは、国語総合の授業でⅠとⅡの文章を読み比べた。これらを読んで、問1～問5に答えよ。

I

唐の太宗^(注1)、即位の後、古殿に栖み給へり。破損せる間、湿気上り、風露冷じうして、玉体侵されつべし。群臣造作すべき由を奏しければ、太宗の云はく、「時、農節なり。民、定めて愁あるべし。秋を待ちて造るべし。湿気に侵されば、地に受けられず、風雨に侵されば、天に合はざるなり。天地に背かば、身あるべからず。民を煩はさずんば、自ら、天地に合ふべし。天地に合はば、身を侵すべからず。」と云ひて、終に宮を作らず、古殿に栖み給へり。

俗、なほ、かくの如く、民を思ふこと、自身に超えたり。況んや、仏子、如来の家風を受けて、一切衆生を一子の如くに憐むべし。我に属する侍者・所従なればとて、呵責し、煩はすべからず。いかに況んや、同学の耆年・宿老等を恭敬すること、如来の如くすべしと、戒文分明なり。然れば、今の学人も、人には色に出でて知られずとも、心の内に、上下、親疎を分たず、人のために善からんと思ふべきなり。大小事につけて、人を煩はして、心を破ること、あるべからざるなり。

(『正法眼藏随聞記』による。)

- (注1) 太宗——人名。唐の天子。
- (注2) 玉体——天子の身体。
- (注3) 造作——家を建てる。建築する。
- (注4) 農節——農事に忙しい時期。
- (注5) 一切衆生——全ての生き物。
- (注6) 所従——従者。家来。
- (注7) 耆年・宿老——年功を積んだ人や、長い間修行を積んだ老僧。
- (注8) 恭敬——謹んで尊敬すること。
- (注9) 戒文——戒律の条文。
- (注10) 学人——修行者。
- (注11) 心を破る——心を傷つける。

II

楚人^(注12)有^ニ担^リ山^ニ鷄^一者^(注13)。路^ル人^ニ問^ヒ曰^ク、「何^ノ鳥^ヤ也。」担^フ者^キ欺^レ之^ヲ曰^ク、「鳳^{ほう}凰^{わう}也。」路^ル人^{ハク}曰^ク、「我^ク聞^ク

有^ル鳳^{ほう}凰^{わう}久^シ矣。今^ニ真^ル見^ル之^ヲ。汝^ル売^ル之^ヲ乎。」曰^ク、「然^シ。」乃^ハ酬^ム之^ニ千^ニ金^一弗^ズ与^ヘ。請^フ加^ヘ倍^ニ。乃^チ

与^フ之^ヲ。方^マ将^マ献^ゼ楚^ニ王^一。経^テ宿^ヲ而^シ鳥^ス死^ス。路^ル人^シ不^レ遑^マ惜^ム其^ノ金^ヲ。惟^タ恨^ム不^レ得^ル以^テ献^ズ耳^ニ。

国^(注17)人^ハ伝^ヘ之^ヲ。咸^ミ以^テ為^ス真^ニ鳳^一而^シ貴^ク。宜^ハ欲^ス之^ヲ。遂^ニ聞^キ於^テ楚^ニ王^一。王^ハ感^ジ其^ノ欲^ス。献^ゼ己^ニ

也。召^シ而^シ厚^ク賜^フ之^ニ。過^リ買^フ鳳^ヲ之^ノ直^ハ十^ニ倍^一矣。

(『笑林』による。)

(注12) 楚——地名。

(注13) 山鷄——きじに似た鳥。

(注14) 路人——路傍の人。

(注15) 酬——報酬として支払う。

(注16) 経宿——一晚経過して。

(注17) 国人——楚の国の人々。

(注18) 直——値段。

問1 傍線部A 秋を待ちて造るべし。とあるが、太宗がこのように言ったのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 秋までに宮殿を作る場所を、国民と時間をかけて検討できそうだから。
- ② 秋までには太宗の体力が快復し、宮殿作りの指示を的確に出せそうだから。
- ③ 秋になれば涼しくなり、宮殿を作る国民の健康への負担が減らせそうだから。
- ④ 秋になれば農作業で多忙な時期が過ぎ、心配なく宮殿作りができそうだから。
- ⑤ 秋は風雨が厳しくなく、計画どおりに宮殿作りを進められそうだから。

問2 傍線部B 天地に合はば、身を侵すべからず。とあるが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 天や地の意志に沿うとしたら、国民の不満はなくなることはないということ。
- ② 天や地の意志に沿わなくなったから、湿気や風雨がひどくなったということ。
- ③ 天や地の意志に沿うならば、太宗の健康が害されるはずがないということ。
- ④ 天や地の意志に沿わないので、太宗の健康は改善しようがないということ。
- ⑤ 天や地の意志に沿おうとするならば、太宗が国民と努力すべきだということ。

問3 傍線部C 之₁とあるが、これと同じ内容を示すものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 今真見之₂。(二重傍線部a)
- ② 汝売之₃乎。(二重傍線部b)
- ③ 乃与之₄。(二重傍線部c)
- ④ 国人伝之₅。(二重傍線部d)
- ⑤ 召而厚賜之₆。(二重傍線部e)

問4 傍線部D 宜欲献之₁とあるが、これは「この鳥を献上しようとしたのはもつともだ」という意味である。「国人」がこのように考えたのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 支払った代金を気にする余裕もなく、王に献上することもできなかった「路人」を見て、本物の鳳凰は貴重なのだと思ったから。
- ② 支払った代金を気にもせず、王に献上できなかつたことだけを悔やんだ「路人」を見て、鳳凰は本物だつたと思つたから。
- ③ 支払った代金を気にしないで、王に献上することを惜しまなかつた「路人」を見て、鳳凰の魅力が尊いものだと思つたから。
- ④ 支払った代金を気にしてばかりで、王に献上することを惜しんだ「路人」を見て、鳳凰は全くの偽物だつたと思つたから。
- ⑤ 支払った代金を気にすることもなく、王に献上した「路人」を見て、本物の鳳凰はそれほど珍しいものなのだと思つたから。

問5

中川さんは、ⅠとⅡの文章を読み比べた後、八木先生と内容について話をした。次の【先生とのやりとりの一部】の空欄 ・ に入るものとして最も適当なものを、後の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は ・ 。

【先生とのやりとりの一部】

八木先生 「ⅠとⅡの二つの文章を読んで、気がついたことはありませんか。」

中川さん 「はい。どちらもリーダーが国民のことを考えた行動をとっている部分がありました。」

八木先生 「では、二人のリーダーは、それぞれどのように行動していましたか。」

中川さん 「はい。 。」

八木先生 「その通りです。では、Ⅰにはほかに、どのようなことが書かれていましたか。」

中川さん 「後半部分に、仏道修行者の心構えとして ということが書かれていました。」

八木先生 「そうですね。」

X

- ① Ⅰでは国民の生活に配慮していましたが、Ⅱでは国民の忠誠心に報いていました
- ② Ⅰでは自身の健康を優先していましたが、Ⅱでは国民の財産を大切にしていました
- ③ Ⅰでは国民への感謝を表現していましたが、Ⅱでは他国への感謝を表現していましたが
- ④ Ⅰでは国民の意見に従っていましたが、Ⅱでは自分の信念に沿って決断していましたが
- ⑤ Ⅰでは一人の国民を重視していましたが、Ⅱでは国民全体に注目していましたが

22

Y

- ⑤ 仏道修行中であっても、国のリーダーに対して配慮する必要がある
- ④ 年齢や身分、親しさに関係なく、相手にとって良いことを考える
- ③ 身分が低く幼い者には、特に思いやりをもって接する必要がある
- ② 社会的立場に応じて、適切に相手への接し方を変える必要がある
- ① 老人や年長者に対しては、どのように接するべきか十分に考える

